K-857

川西町埋蔵文化財調査報告書第7集

山形県川西町

分布調査報告書

1984

川西町教育委員会

序

本報告書は、昭和58年度に実施した眺山丘陵埋蔵文化財包蔵地の詳細分布調査の結果をまとめたものであります。

眺山丘陵は、羽前小松駅より北西2㎞の所にあり、東西0.8㎞、南北2㎞、標高は220m～280mの規模を有し、川西町と飯豊町の境をなしております。緑濃い赤松の林に覆われた見事な自然の景観を供え、“緑と愛と丘のあるまち„を象徴しているといっても過言ではありません。

この丘陵地帯に、多くの墳墓があると昔から言い伝えられていましたが、正確な数や規模、範囲など解明されないままでおりました。近年、埋蔵文化財に対する理解も深まっている折、本町で発掘調査しました道伝遺跡や天神森古墳の調査と並んで、今回の分布確認調査は、極めて価値の高いものであるとの認識を得たわけであります。

調査の結果、眺山丘陵には200基以上の古墳が確認されました。名称については、県教育庁文化課・佐々木洋治氏にご検討賜わり、「下小松古墳群」と決定をみております。200基の古墳中に、前方後円墳が15基確認されたことは、素晴らしい成果であり、さらに9世紀の置賜郡衙といわれる道伝遺跡の周辺にも、同年代の遺跡群が確認されておりますので、置賜郡衙との関連をもつ遺跡であることも推察されることから、今年度の調査は、極めて重要な発見であったと思っております。

最後になりましたが、本調査にご協力賜わりました関係各位並びに地元の方々に、衷心より感謝申しあげますと共に、本書が埋蔵文化財に対する理解の一助になることを念願いたします。

昭和59年3月

川西町教育委員会

教育長　金　子　兵　司

目　　次

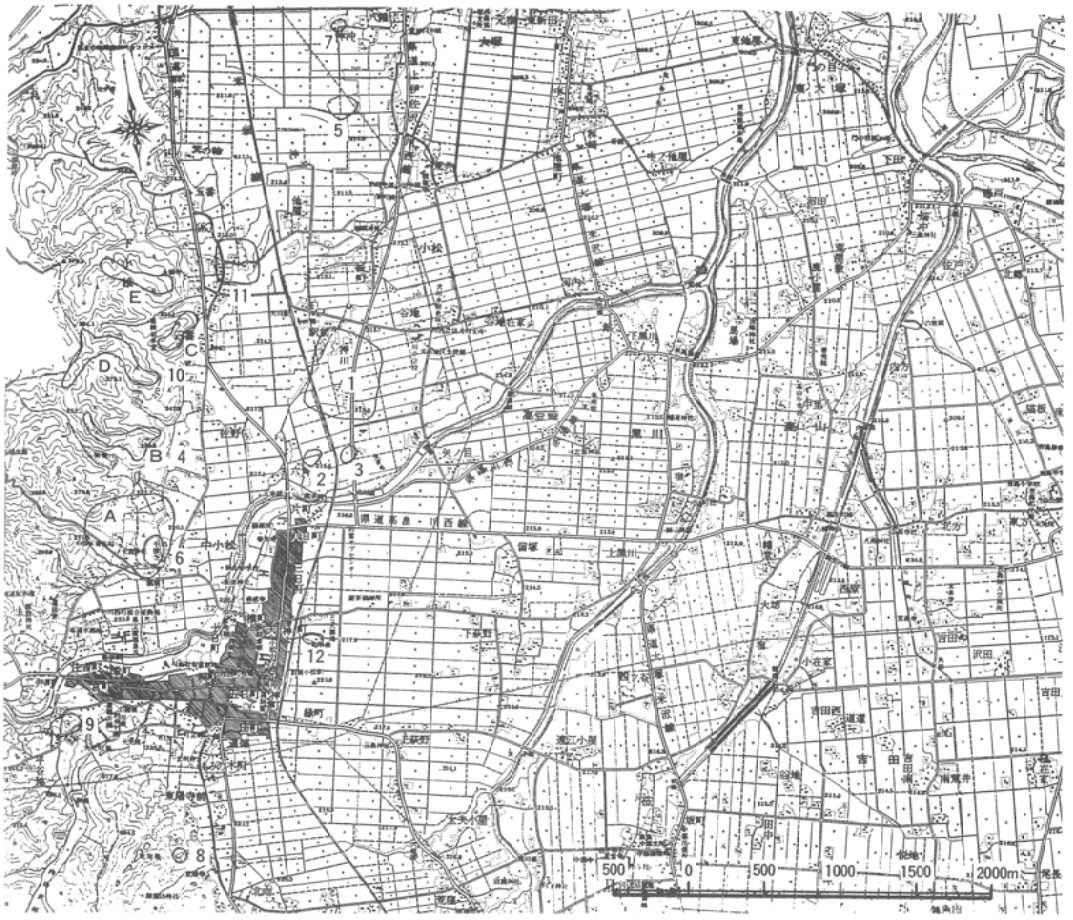
○ 序
○ 例　言
Ⅰ 調査の経緯 …… 1
1. 調査に至るまで …… 1
2. 調査の方法 …… 2
3. 調査の経過 …… 2
付表１　分布調査工程表 …… 2
Ⅱ 試掘調査遺跡地名表 …… 4
Ⅲ 試掘調査実施遺跡概要 …… 6
下小松山古墳一覧表 …… 20
付表２　支群別形態と数 …… 22
Ⅳ ま と め …… 25

挿　　図

第１図　眺山丘陵周辺の地形図 …… 1
第２図　川西町全区グリット配図 …… 3
第3・4図　龍蔵北遺跡出土遺物実測図 …… 12
第５図　小森山支群実測図 …… 22
第６図　下小松山墳丘群略図 …… 23

例　　言

1. 本報告書は、川西町教育委員会が国庫補助を得て、昭和58年度に実施した、眺山丘陵遺跡詳細分布調査の報告書である。
2. 調査期間は、昭和58年4月11日から昭和59年3月31日までである。
3. 調査には、調査総括　工藤盛光・調査主任　藤田宥宣・調査員　月山隆弘・同　高橋宏平・参加者　藤倉徳夫・高橋啓一・黒澤一利・佐藤　肇・高橋　誠・多田敬吉・藤倉良子・高橋弘子・井上とく・舩山エイ・大崎由紀子があたった。
4. 本報告書の執筆・編集は月山隆弘が行い、写真図版・図版トレース土器実測は高橋・月山が担当し、藤田が補佐した。第３図は手塚　孝氏の実測トレースを用いた。
5. 本調査にあたっては、佐々木洋治氏（県文化課）、町文化財保護協会、手塚　孝氏、地権者　竹田又右衛門氏をはじめ、関係各位の御指導、御協力をいただいた。記して感謝申し上げる。



1. 押川遺跡　2. 六角遺跡　3. 片町東遺跡　4. 佐野遺跡　5. 龍蔵北遺跡　6. 千松寺遺跡
7. 仲沖遺跡　8. 東陽寺遺跡　9. 平谷地遺跡　10. 下小松山墳丘群　11. 道伝遺跡　12. 天神森古墳

第１図　眺山丘陵周辺の地形図

I. 調査の経緯

1. 調査に至るまで

町教育委員会では、各種開発計画が行なわれる地域において、埋蔵文化財包蔵地などを対象として、詳細にわたる分布調査を行なったものである。これは地域の開発に対処するとともに、埋蔵文化財の保護を図る目的で実施した。しかし、現在においても各種開発事業等が進められており、本格的な調査に至るまでに遺跡が破壊されているおそれがあるため、今回は眺山丘陵地帯を中心として、当町としては初めて調査したものである。

眺山丘陵遺跡詳細分布調査として、国庫補助を得て昭和58年4月11日から昭和59年3月末日まで実施した。

2. 調査の方法

川西町全区に高戸屋山三角点(368.2m)上を中心として磁北線を引き、一辺1km×1kmの南北1～22・東西A～Sのグリットを作った。そのJ～M－4～10のグリット内に設定し、5カ所の調査中心地区を設定した。遺跡範囲を明確にするには、遺物の散布・出土についての住民の情報を収集しながら、遺跡付近の地形を検討して歩いて探し、現に承知の遺跡については現地の状況・範囲をより正確に把握することに重点をおいた。また、必要に応じては試掘を行ない、時代・性格を確認しようとした。

3. 調査の経過

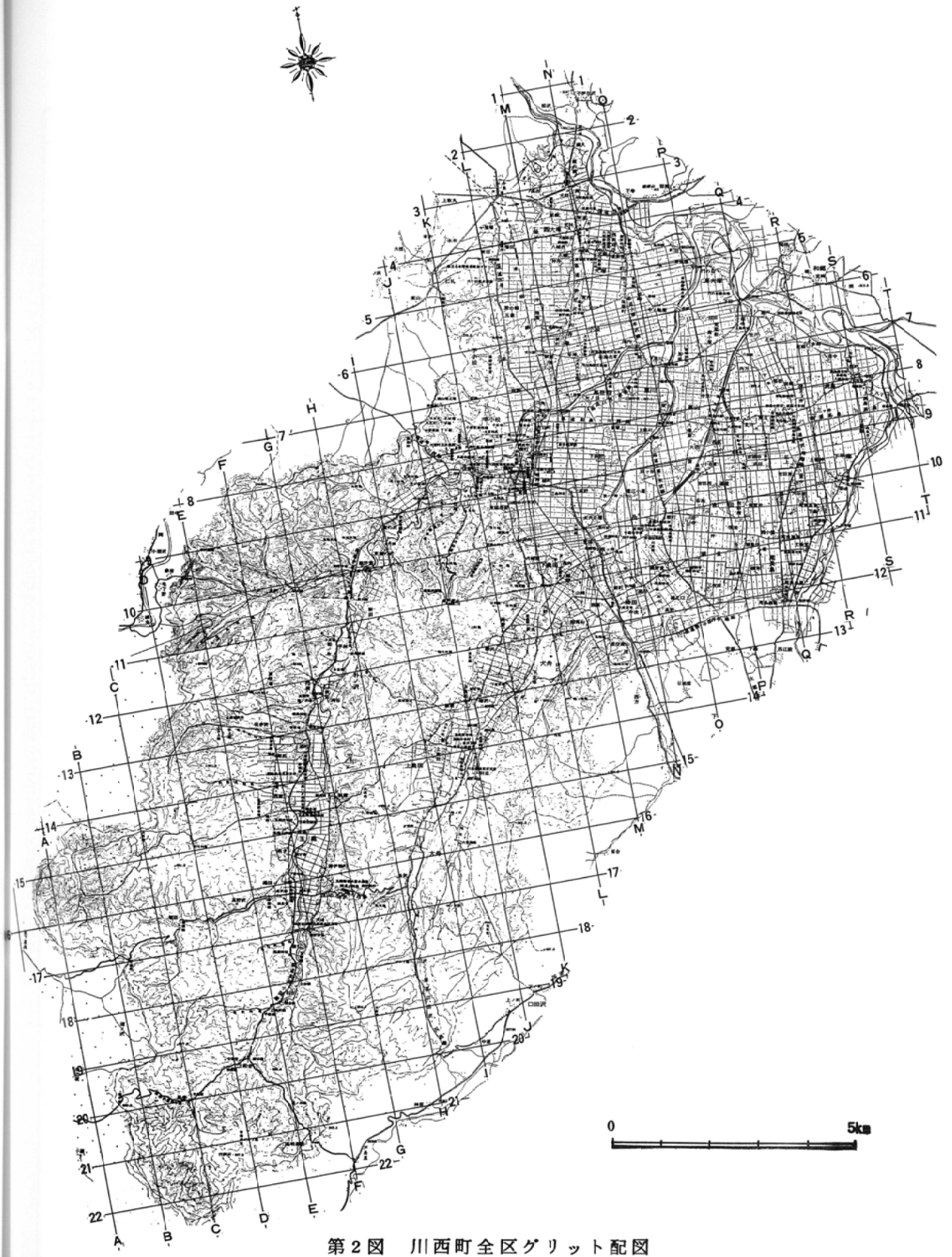
遺跡詳細分布調査は、川西町教育委員会が主体となり、町文化財保護協会、その他関係各機関などの協力を得て、昭和58年4月11日から実施した。

調査の日程は表－1の通りである。調査対象は、下小松山、龍蔵北、押川、天神森、東陽寺、その他に及ぶ。

現地調査は、丘陵上は雪解け直後の若葉茂る前という条件の下で、水田・畑地は耕作のあい間及び耕作後に行なった。以上のように限られた期間のみにおいて実施したので、天候には恵まれず順調に調査を進めることは困難であった。

表－1　分布調査工程表

内容＼期日	昭和58年 4月	5月	6月	7月	10月	11月	12月	昭和59年 1月	2月	3月
眺山丘陵	⇨	⇨	⇨							
下小松					⇨					
龍蔵北・仲沖	⇨				⇨					
東陽寺・平谷地				⇨						
千松寺						⇨				
資料整理			⇨							
報告書作成						⇨	⇨	⇨	⇨	⇨



第２図　川西町全区グリット配図

Ⅱ. 試掘調査遺跡地名表

遺跡番号	種別	遺跡名	所在地・所有者名	時期	地目	立地
1	集落跡	押川	川西町大字小松字吉原2154 所有者　今野和一（他）	平安	水田 畑地 原野	段丘 (217m)
2	集落跡	六角	川西町大字中小松字小深田3305−1 所有者　金田辰夫（他）	平安	水田 畑地	段丘 (219m)
3	集落跡	片町東	川西町大字中小松字柴塚98−1 所有者　柳橋達雄（他）	平安	水田 畑地	段丘 (218m)
4	集落跡	佐野	川西町大字下小松字佐野 所有者　梅津俊雄（他）	平安	水田	段丘 (216m)
5	集落跡	龍蔵北	川西町大字西大塚字荒小屋 所有者　片桐久衛（他）	古墳時代 奈良時代	水田	段丘 (211m)
6	集落跡	千松寺	川西町大字下小松字稲荷堂215 所有者　黒沢一夫（他）	平安時代	水田 畑地 原野	段丘 (210m)
7	散布地	仲沖	川西町大字西大塚字仲沖642 所有者　高橋孝太郎(他）	平安時代	畑地	段丘 (211m)
8	散布地	東陽寺	川西町大字上小松字一反在家ノ二2769−2 所有者　小林親平（他）	平安時代	水田 畑地	段丘 (226m)
9	集落跡	平谷地	川西町大字上小松字平谷地5095−21 所有者　井上宏三	縄文	畑地 原野	段丘 (214m)
10 A	墳墓	尼カ沢支群	川西町大字下小松字尼カ沢 所有者　竹田又右衛門(他)	不明	山林	丘陵 (250m)
10 B	墳墓	小森山支群	川西町大字下小松字小森山 所有者　竹田又右衛門(他)	不明	山林	丘陵 (253m)
10 C	墳墓	薬師沢支群	川西町大字下小松字薬師沢 所有者　竹田源右衛門(他)	不明	山林	丘陵 (237m)
10 D	墳墓	中間支群	川西町大字下小松字舞台山 所有者　高橋正雄（他）	不明	山林	丘陵 (284m)
10 E	墳墓	永松寺支群	川西町大字下小松字薬師沢 所有者　島津憲英（他）	不明	山林	丘陵 (260m)

遺　跡　概　要	出土遺物	備　考
犬川右岸段丘上に位置し、道伝遺跡の南東800mに近接する。水田・畑地・原野より多量の遺物が採集できる。	土師器 須恵器片	新規
犬川右岸段丘上に位置し、道伝遺跡の南方1kmにある。水田を25～30cm掘り下げることにより土壙が確認できた。遺物包含層は良好に残っている。	土師器片 須恵器片	新規
犬川右岸段丘上に位置し、道伝遺跡の南東1.2kmにある。国鉄、羽前小松駅と犬川駅のほぼ中間東方にあり、遺物は広い範囲で採集できる。	土師器片 須恵器片	新規
犬川右岸段丘上に位置し、道伝遺跡の南東1kmにある。水田を30～40cm掘り下げることにより須恵器が採集できる。	須恵器片	新規
犬川右岸段丘上に位置し、道伝遺跡の北東1kmにある。現況は水田になっており、用水路には遺物包含層が良好に残って遺物が多量に採集できる。	土師器 須恵器片	No.1333 昭和53年一部町教委の調査
眺山丘陵より張り出す舌状地の先端に位置する。縄文前期から中世までの複合遺跡である。	石器 縄文土器 中世陶器	No.1332 昭和54年一部町教委の調査
眺山丘陵と最上川河岸のほぼ中央に位置し、龍蔵北遺跡の北方500mに近接する。畑地・水田になっており畑地に若干の遺物の散布がみられる。	土師器片 須恵器片	新規
眺山丘陵北東先端に位置し、玉庭丘陵からなる微高地先端にある。遺物の量は少ない。	土師器片	新規
玉庭丘陵を源とする犬川の上流に位置し、河岸段丘上にある。縄文期の石器が採集できる。	石器	No.1322
眺山丘陵の南側に位置している。現在確認されている墳丘は19基あり、いずれも方形の墳丘である。	須恵器系印花文四耳壺	No.1331
眺山丘陵の中央に位置し、舞台山から東に張り出している所である。円墳を主体として分布している。		No.1329
眺山丘陵の中央部からやや北部に位置している。方墳を主体として分布している。	須恵器系甕	No.1328
眺山丘陵の中央部に位置している。南段丘下には大堤沢がある。円墳を主体として分布している。		新規
眺山丘陵の北端に位置している。北側斜面での確認は他の墳丘群ではみられない。		新規

Ⅲ. 試掘調査実施遺跡概要

1. 押川遺跡（G　L・M－6・7）

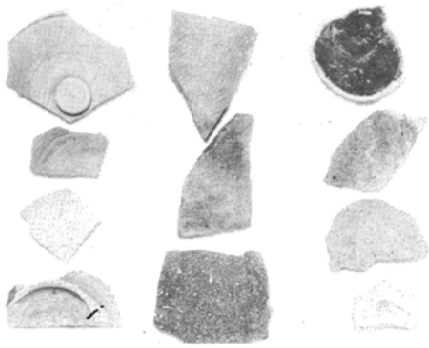
所　在　地　　山形県東置賜郡川西町大字小松字吉原（他）

調 査 期 日　　昭和58年10月27日～28日・同年11月4日

遺跡の概要

本遺跡は米沢盆地の北西部に位置し、西側に吾妻山系栂峯（標高1,541ｍ）よりのびる眺山丘陵と玉庭丘陵を源とする犬川の中間に分布する。犬川の浸食作用によって形成された沖積底位河岸段丘上にあり、標高217ｍ、遺跡範囲内西側は米坂線が南北に通っている。現在は水田・畑地・原野になっており、遺跡の範囲は東西600ｍ×南北800ｍ、面積約480,000㎡である。地表下20～30㎝で土師器坏片が採集できる。遺物より本遺跡は、須恵器坏・蓋が多く検出し、赤焼土器坏・土師器坏片なども出土し、平安時代前期～中期としての性格をもつものと考えられる。

近　　景



出　土　遺　物

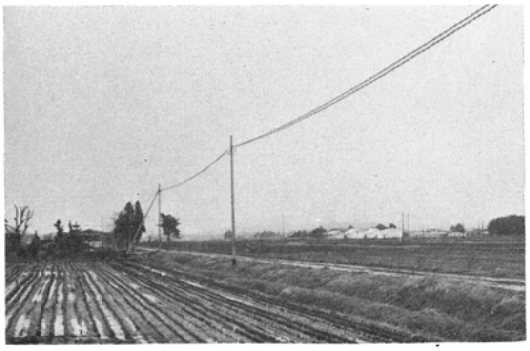
2. 六角遺跡（G　L－6・7）

所　在　地　　山形県東置賜郡川西町大字中小松

調査期日　　昭和58年10月31日

遺跡の概要

本遺跡は道伝遺跡の南方約1㎞に位置し、道伝遺跡と同じ河岸段丘上にあり、東になるにつれてしだいに低くなっている。また南東に片町遺跡、西側に佐野遺跡、北東には押川遺跡が各々約500ｍ離れて確認されている。現在は水田・畑地になっており、標高約217ｍ、遺跡の範囲は東西100ｍ×南北100ｍ、面積約10,000㎡である。地表下20～25㎝に厚さ10～20㎝の遺物包含層がみられ、地表下30～35㎝で地山に達する。遺物は平安時代の土師器坏・甕・須恵器坏が出土している。以上のことから、本遺跡は、片町遺跡、佐野遺跡、押川遺跡と平行して、平安時代の集落跡としての性格をもつものと考えられる。



近　景

出　土　遺　物

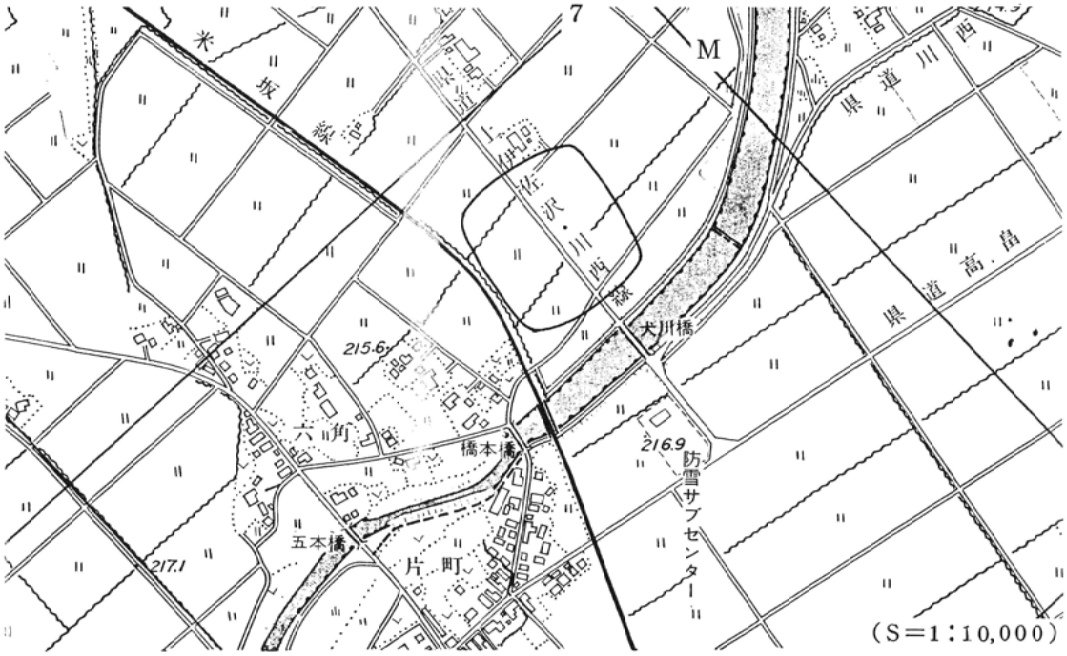
3. 片町東遺跡（G　L－7）

所　在　地　　山形県東置賜郡川西町大字中小松

調 査 期 日　　昭和58年10月28日～29日

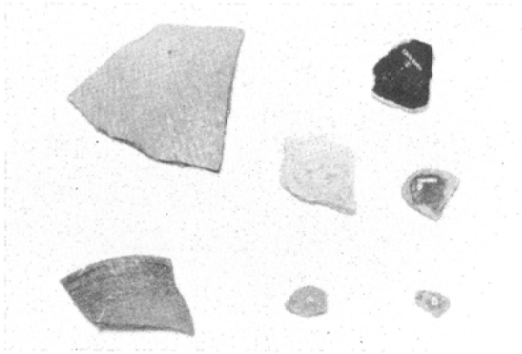
遺跡の概要

本遺跡は道伝遺跡の南東約1.5㎞の所に位置し、道伝遺跡と同じ河岸段丘上で、多くの遺跡が点在し、本遺跡もその一つであり、米坂線の羽前小松駅と犬川駅のほぼ中間に立地する。現在は水田・畑地となっており、標高約216ｍ、遺跡の範囲は東西200ｍ×南北200ｍ、面積約40,000㎡で、東西は西側が高く、東になるにつれて徐々に低くなっている。地表下25～30㎝で、土師器坏片が採集できる。しかし、県営圃場整備事業において地山の一部は攪乱されている。遺物は少ないが、出土遺物より本遺跡は、佐野遺跡、押川遺跡、六角遺跡と平行して、平安時代の集落跡としての性格をもつものと考えられる。



（S＝1：10,000）

近　　景



出　土　遺　物

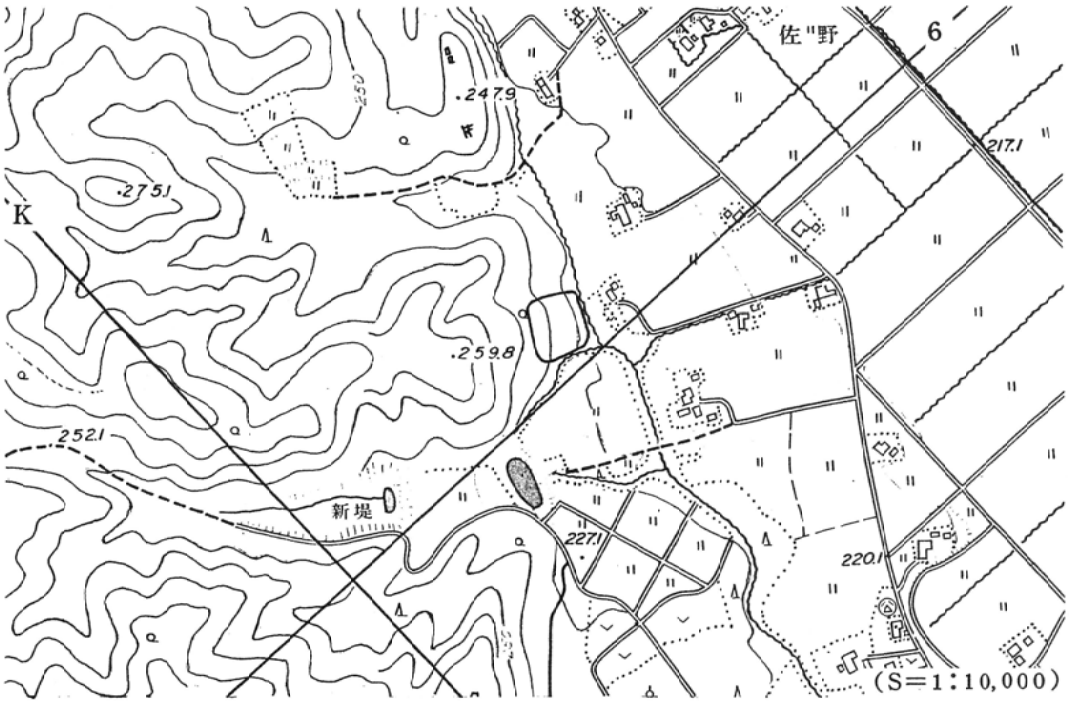
4. 佐野遺跡（G　K－6）

所　在　地　　山形県東置賜郡川西町大字下小松字佐野

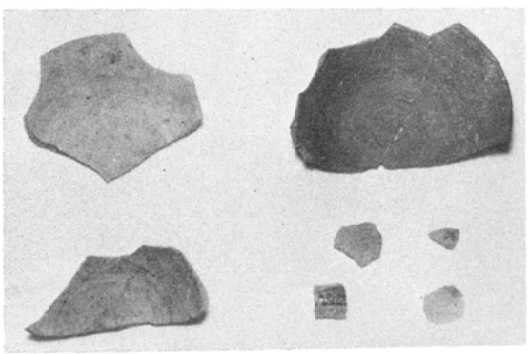
調査期日　　昭和58年4月15日

調査の概要

本遺跡は眺山丘陵東側先端に位置し、道伝遺跡と千松寺遺跡のほぼ中間にあり、また西方200 mには下小松山古墳群がある。遺跡は、丘陵裾の緩やかな微高地となっており、東になるにつれてしだいに低くなっている。現在は水田・畑地となっており、標高226 m、遺跡の範囲は東西50 m×南北50 m、面積約2,500 ㎡である。水田地表下30～40 cm 須恵器坏が出土している。遺物より本遺跡は、平安時代の集落跡としての性格をもつものと考えられる。



近　景



出　土　遺　物

5. 龍蔵北遺跡（G　L・M－4・5）

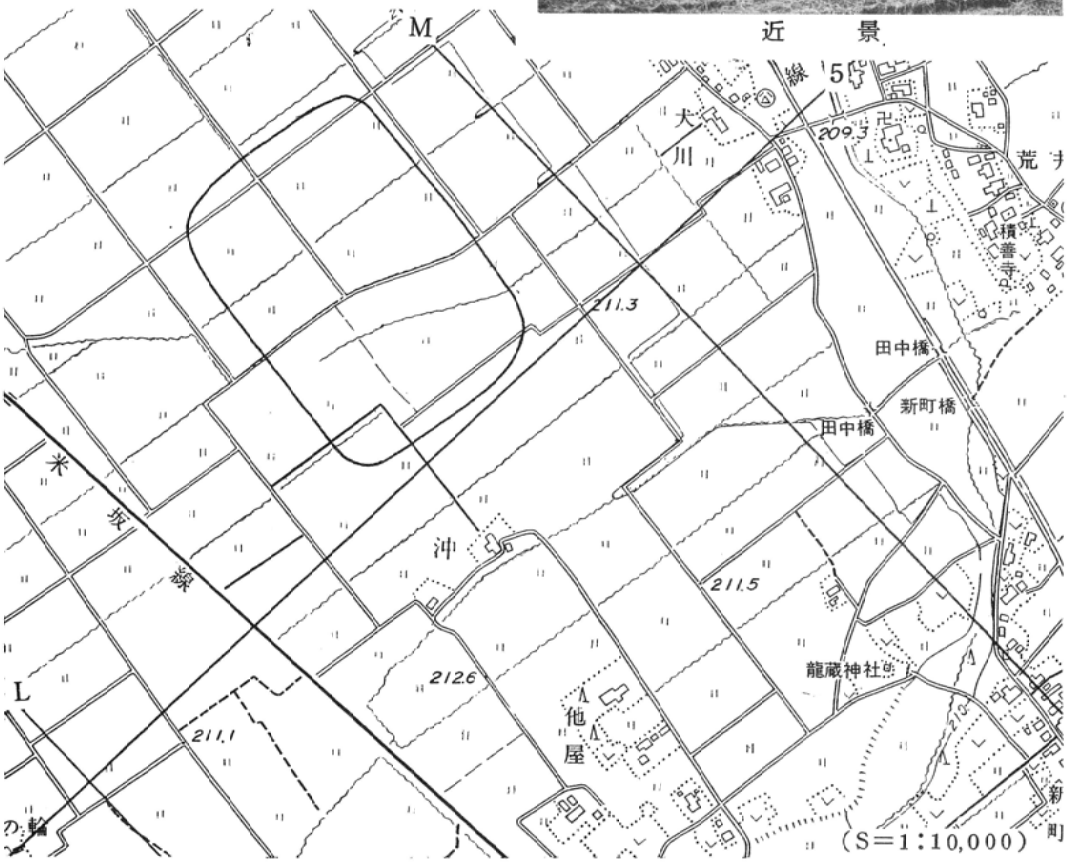
所　在　地　　山形県東置賜郡川西町大字大塚字荒小屋（他）

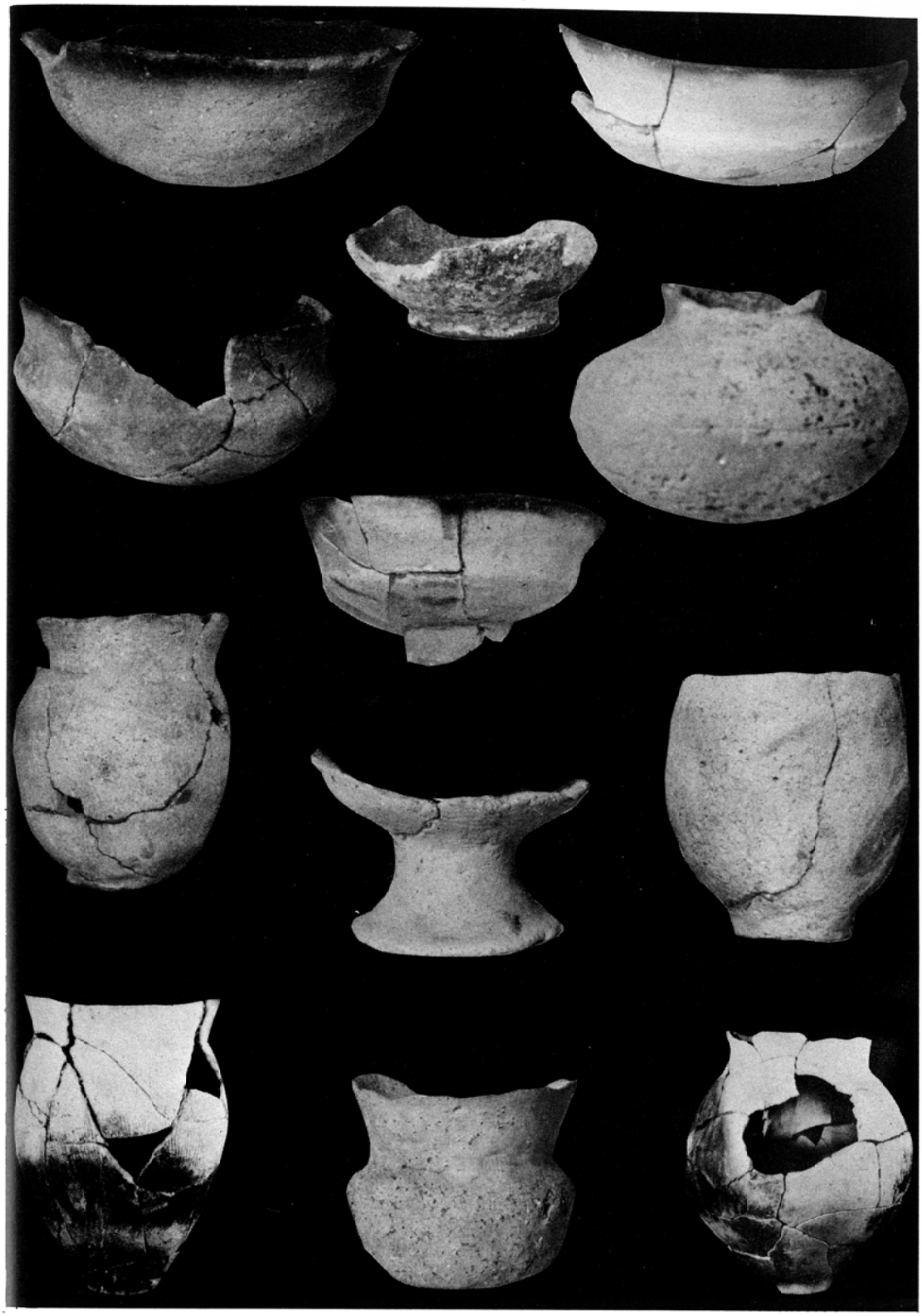
調 査 期 日　　昭和58年4月11日～13日・同年11月8日

遺跡の概要

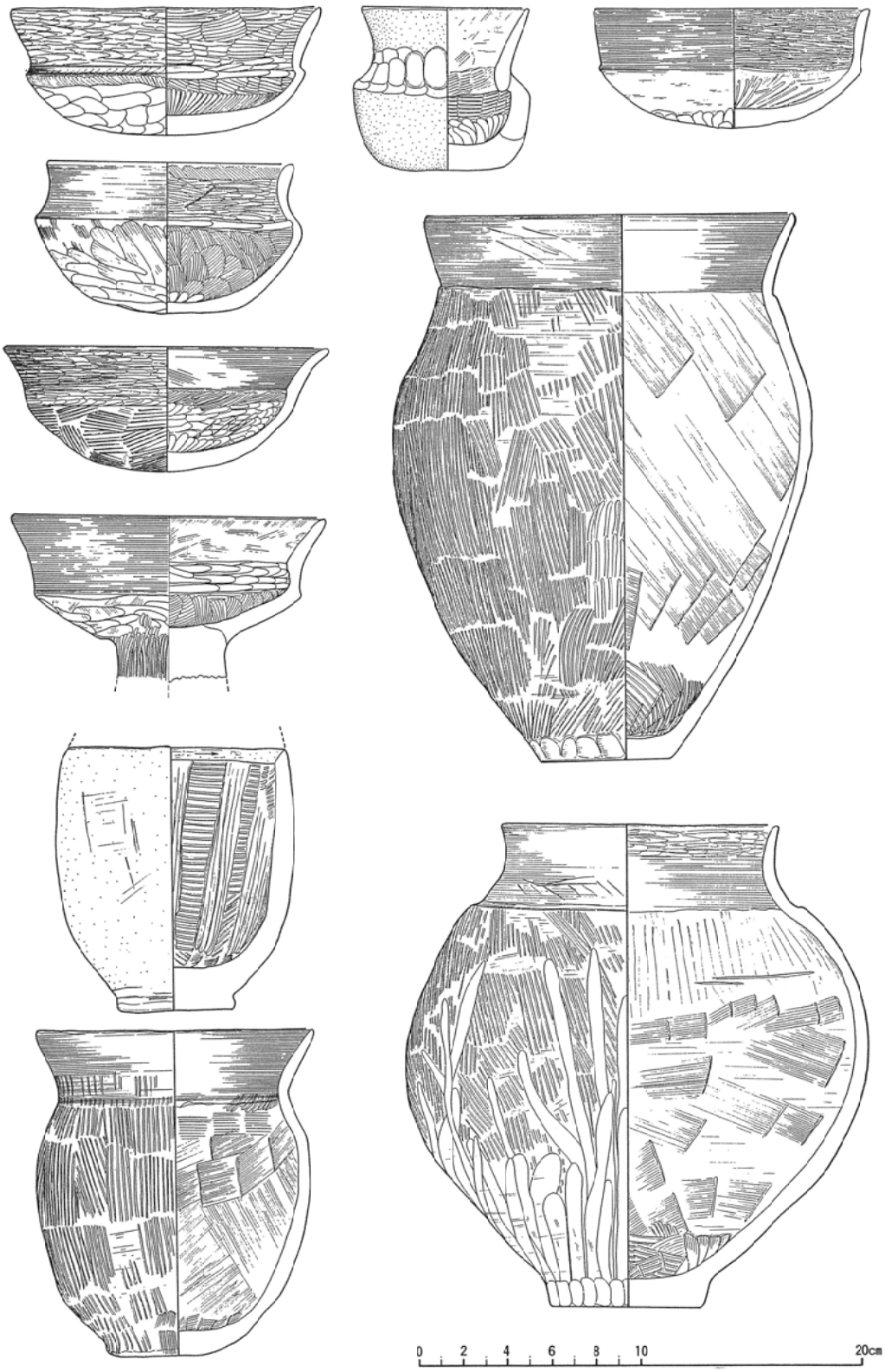
本遺跡は玉庭丘陵と眺山丘陵を源とする犬川右岸、河岸段丘上に位置する。南方800mには龍蔵神社があり、遺跡西方には国鉄米坂線が南北に通っている。現在は水田となっており標高211m、遺物の範囲は東西300m×南北400m、面積約120,000㎡である。水田地表下35～45cmで遺物が採集され、近くを流れる用水路底面、現水田面下約1mの灰褐色堆積層10～15cmが遺物包含層である。この層より多量の土器類が出土している事などから、概して保存状況は良好であると考えられる。また遺物では、古墳時代末期住社式、同期栗囲式の土師器坏・壺（完形品）須恵器坏片が出土し、古墳時代末期より奈良時代初期の大規模な集落跡としての性格をもつものと考えられる。

近　景

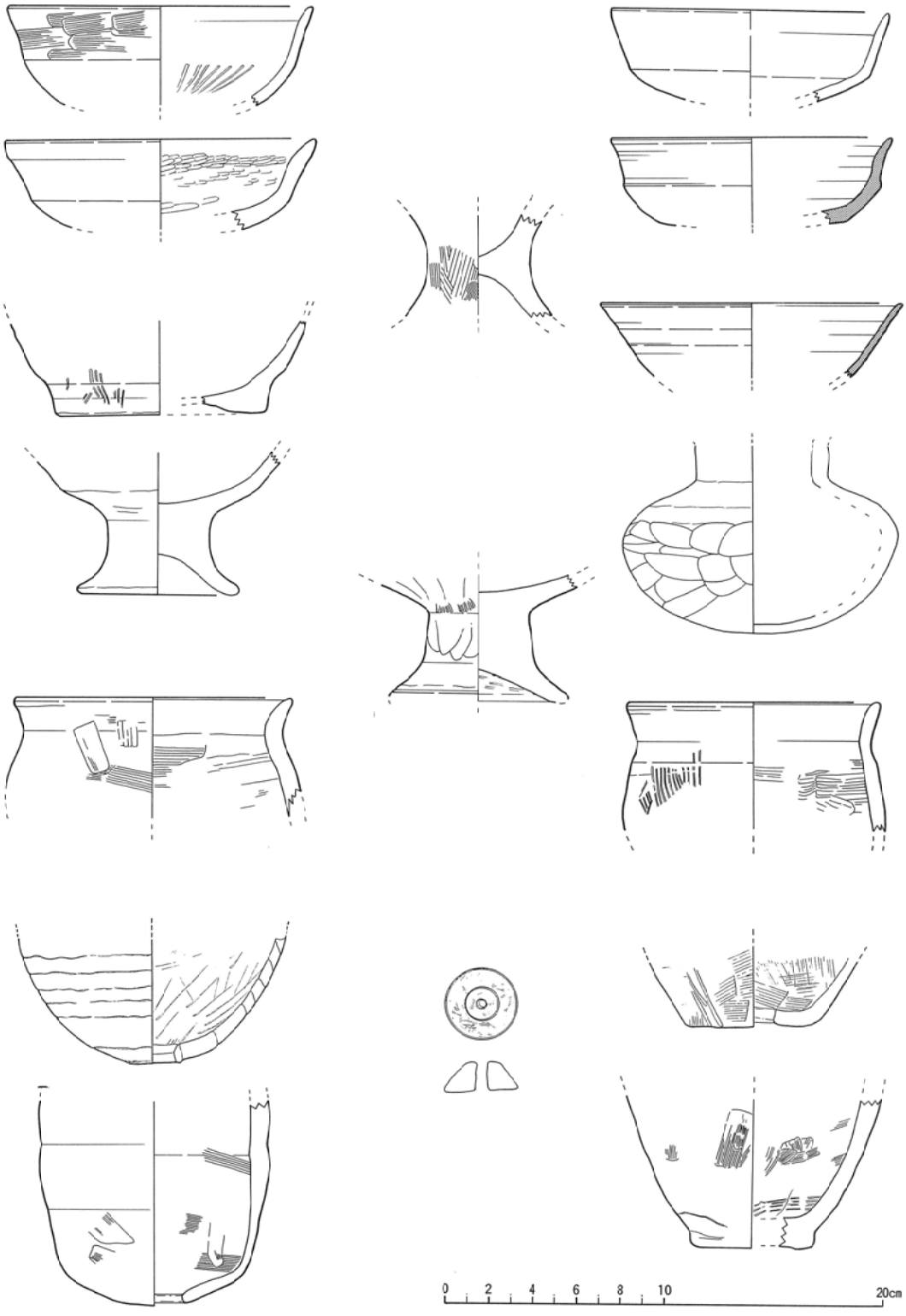




龍蔵北遺跡出土遺物



第３図　龍蔵北遺跡出土遺物実側図



第4図　龍蔵北遺跡出土遺物実側図

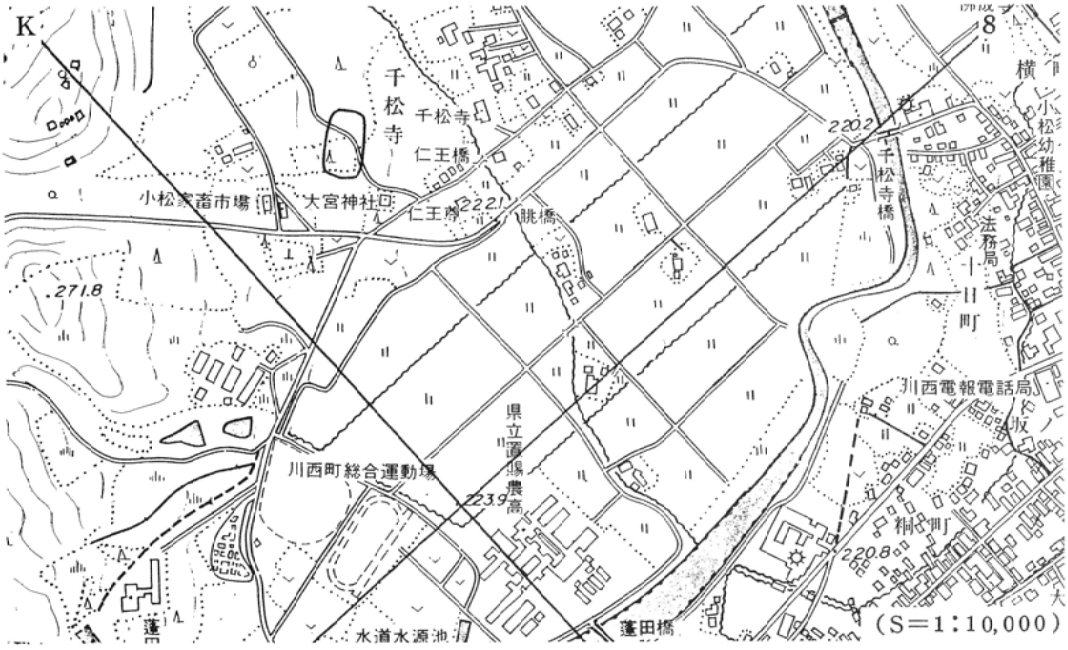
6. 千松寺遺跡（G　K－7）

所　在　地　　山形県東置賜郡川西町大字下小松字稲荷堂215（他）

調査期日　　昭和58年4月16日

遺跡の概要

眺山丘陵より張り出す舌状地の先端に位置し、遺跡の直下には犬川の浸食作用による河岸段丘が発達し、その第一河岸段丘と微高地先端の複合した緩やかな標高210mのところにある。遺跡範囲は東西　80m×南北　50　m、面積約4,000㎡である。南東2kmには国鉄米坂線羽前小松駅があり、この線が米沢盆地の西側を眺山丘陵に沿って南北に通っている。昭和54年6月17日～同年6月25日・同年8月28日～同年11月30日まで発掘調査が行なわれ、鎌倉期の墳墓群の形態が明らかにされた。また、縄文時代前期の石器、土器が検出され、縄文時代より中世までの複合遺跡である。



近　　景

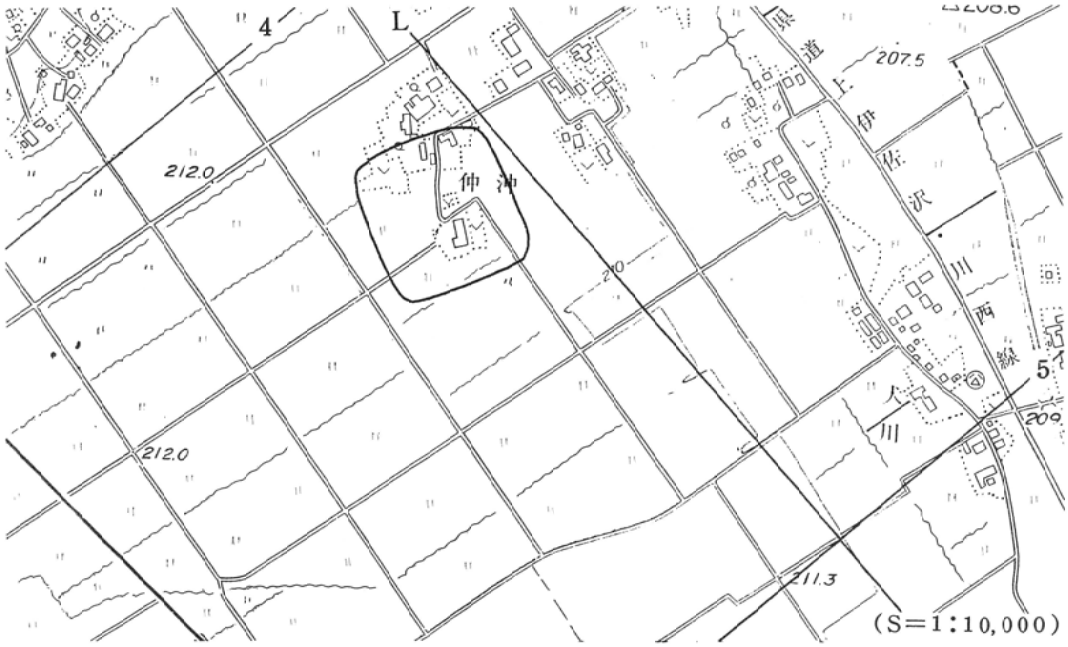
7. 仲沖遺跡（G　L－4）

所　在　地　　山形県東置賜郡川西町大字西大塚字仲沖

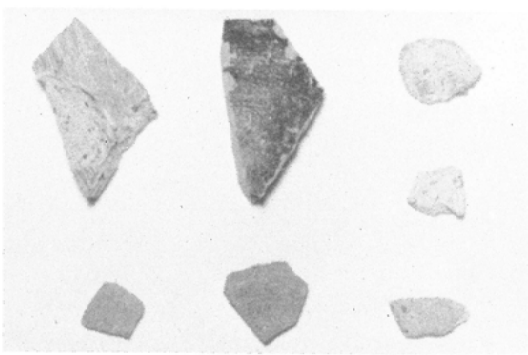
調 査 期 日　　昭和58年10月29日

遺跡の概要

本遺跡は眺山丘陵と米沢盆地を南北に流れている最上川とのほぼ中央に位置しており、最上川支流である犬川がもたらした河岸段丘上に立地している。東西は緩やかな傾斜になっており、東になるにつれてしだいに低くなっている。南方500ｍには龍蔵北遺跡（古墳時代後半～奈良時代）がある。現在は畑地・水田（標高211ｍ）になっており、遺跡の範囲は東西200ｍ×南北200ｍ、面積約40,000㎡である。畑地地表下25～30㎝や地表面に土師器、須恵器片等が出土している。遺物より本遺物は、平安時代の集落としての性格を持つものと考えられる。



近　　景



出　土　遺　物

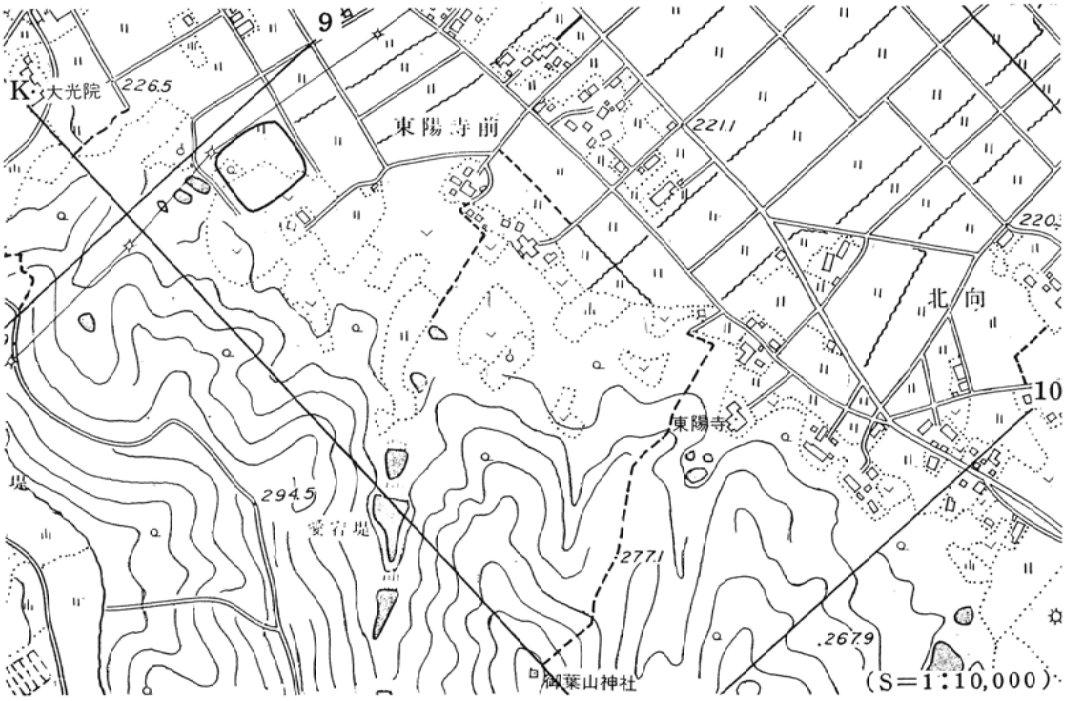
8. 東陽寺遺跡（G　K－9）

所　在　地　　山形県東置賜郡川西町大字上小松字一反在家ノ二

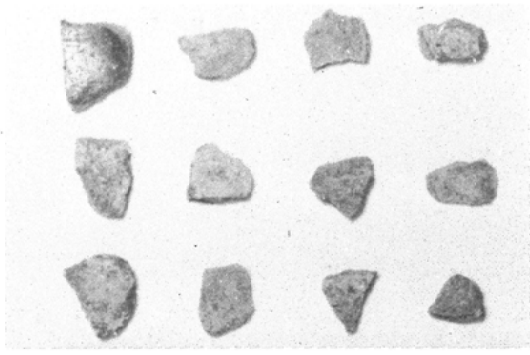
調査期日　　昭和58年10月6日～7日

遺跡の概要

本遺跡は玉庭丘陵北東部先端に位置し、玉庭丘陵からなる高台で、遺跡範囲内には東陽寺がある。遺跡の東側一帯は水田が広がっていて、現在は畑地・水田になっており、標高約226m、遺跡の範囲は東西100m×南北100m、面積約10,000㎡である。遺跡は西側が高く、東側になるにつれてしだいに低くなっている。水田地帯は圃場整備のため包含層が攪乱されている。畑地の地表下20～30cmで内黒土師器片が採集できた。遺物の量は少ない。



近　景



出　土　遺　物

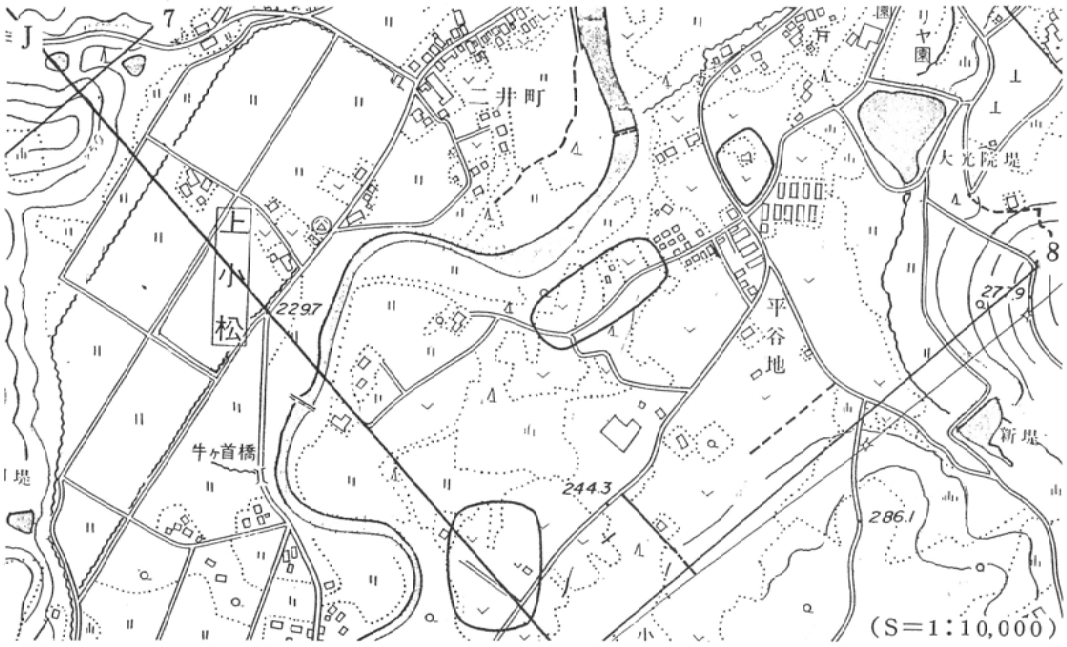
9. 平谷地遺跡（G　J・K－8）

所　在　地　　山形県東置賜郡川西町大字上小松字平谷地

調 査 期 日　　昭和58年10月6日～7日

遺跡の概要

本遺跡は玉庭丘陵を源とする犬川の上流に位置する扇状地状に急に広がる河岸段丘上にあり、町中心部小松より西方1～1.5㎞に立地する。現在は畑地・原野・山林になっている。標高227～237ｍで、遺跡の範囲は東西1㎞×南北100ｍ、面積約100,000㎡で大部分が破壊されている。段丘を利用した畑地表面に石器等が散乱しており、また、原野・山林からは、地表下20～30㎝で同じく石器等が採集できる。遺物より本遺跡は、縄文時代における集落跡としての性格をもつものと考えられる。しかし、現地は近年に多くの宅地造成やその他、開発事業等で破壊されている。



近　　景

出　土　遺　物

10. 下小松山墳丘群（G　J・K－5～7）

所　在　地　　山形県東置賜郡川西町大字下小松字尼ヵ沢・大堤沢・舞台山・薬師沢（他）

調 査 期 日　　昭和58年4月16日～同年6月10日

遺跡の概要

本墳丘群は、川西町北西部眺山丘陵に分布している。本町の西側を縦断する国鉄米坂線国道287号線ぞいにあり、国鉄羽前小松駅、その北西2㎞のところで、標高220～280m、遺跡範囲、東西800m×南北2㎞、面積約1,600,000㎡である。南北に長く、尼ヵ沢・小森山・舞台山・薬師沢とがあり、それぞれ500～600mの距離をおいて分布している。下小松山墳丘群は約50年前、故　安部三郎氏（下小松）が踏査し、墳丘が現存することは知られていた。しかし、その数や規模や形態は記載されないまま現在に至っていた。今年度の調査は、4月下旬から6月上旬において行なわれた。この調査で眺山丘陵において確認された古墳の数は、方墳114基、円墳66基、前方後円墳15基である。なお下小松山墳丘は大きく5ヵ所に分けられ、その大きさや形態が異なっている。

a．尼ヵ沢支群

眺山丘陵にある墳丘群で、中でも南側にある墳丘である。昭和6・24年の安部三郎氏の図面には94基の墳丘が記されている。しかし、現在確認できる墳丘は19基であり、いずれも方形の墳丘である。昭和54年度発掘調査を行なった千松寺遺跡塚群を含めても24基で、この中には県指定の尼ヵ沢土壇も含む。墳丘の中には山よせのものが6基確認される。この墳丘群より鉄の経筒や須恵器系印花文四耳壺等が発見されている。また54年度の発掘調査での成果等を鑑みて、平安期末から鎌倉期のものが主体となると考えられる。しかし、丘陵の尾根にあるものと平坦部にあるものとがあり、一概にすべての墳丘が同時期とはいいきれないものである。大きさも一辺が3～20mとさまざまであり、円形を示すものが一基もないことより、他の支群とは異なる点が多い。この尼ヵ沢支群の墳丘の立地する標高は220～280mであるが、数多く造られているところは220mとほぼ平坦部に近いところであり、昭和の初め94基を数えることのできた墳丘も現在19基で、75基の墳丘が破壊されたことになる。

b．小森山支群

眺山丘陵の一部で、大字下小松字大堤沢・字舞台山に所在する。この付近が小森山と称するところである。標高240～280mの東西600m×南北300mが支群の範囲であり、この支群は円墳が多く分布し、円墳36基、前方後円墳15基、方墳24基である。大きさ

は8～12 mが主体となり、第6図のように墳丘が累累と並んでいる。なかでも前方後円墳は全長20～35 mを測り、まわりに円墳・方墳が築造されている。安部氏の図面には70基の墳丘が確認できるが、今回の調査において75基が確認された。この支群は丘陵の尾根に分布していることから、近世の開発の手がとどかなかったことにより破壊されなかった。しかし、墳丘の中には盗掘の痕がみられるものもある。

c．薬師沢支群

大字下小松字薬師沢にある墳丘群で塔カ峰と呼ばれ、昭和初期にこの場所から須恵器系甕が発見されている。支群範囲は東西200 m×南北400 m、標高230～260 mの尾根から裾部まで分布し、南側斜面にある。尾根にある152・134号の方墳は19～22 mの一辺をもつ。また、145号の円墳の直径は25～27 m、高さ約3.5 mで墳丘上には15～20 cmの平たい河原石が多く散乱している。斜面に分布する方墳は山寄せで4～16 mの大きさを示す。この支群は方墳が主体として分布しており、方墳49基、円墳10基確認された。安部氏の図面には54基記されている。

d．中間支群

小森山支群と薬師沢支群のほぼ中間に位置する丘陵の尾根にある墳丘群で、支群範囲は東西700 m×南北1 km、標高230～280 mに分布している。中間支群の中で大規模な墳丘は106号円墳で、周湟があり、直径24 m、高さ約4 mである。全体の墳丘数は23基確認され、方墳15基、円墳18基である。

e．永松寺山支群

眺山丘陵にある墳丘群の中で、北端において確認されたが、安部氏の図面には記されていない。永松寺の付近にあるもので土壇の可能性がある。198・199号墳は北側斜面にて確認されたもので、このような北側斜面での確認は他の墳丘群にはみられない。

以上5地域の支群に分け、墳丘の形態を円墳・方墳・前方後円墳と分類し、墳丘の調査を行なったが、すべてが古墳であるといえるものではない。しかし、発掘調査が行なわれていない段階でもあり、便宜上あえて円墳・方墳等の表現法を用いた。これら支群の築造年代等、今後正しい位置図作成のもと発掘調査を行なう計画である。今年度の調査で、下小松山古墳群の墳丘は破壊されたものを含めると272基となるが、今後の調査で多くなるものと思われる。

下小松山古墳群一覧表

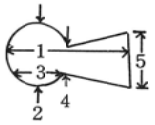
	番号	墳形	大きさ	備考
尼ヵ沢支群	6	方形	5×5m M小	
	7	方形	5×5m M小	5枚の腹簗、内部より木炭と骨片、古銭6枚、円形小鏡49
	8	方形	6.7×4.4m M小	5枚の腹簗、中世陶器片5点出土石塔（五輪塔片）
	9	方形	7×7m M小	墓壙4基
	10	方形	6×5m	土壙
	11	方形	3.5×2.8m M小	用水路に削られている
	12	方形	3.5×4.5m M小	用水路に削られている
	13	方形	2.5×2.8m M小	
	14	方形	5×6.2m M小	
	15	方形	5×5m M小	
	16	方形	14×6m M小	
	17	方形	11×12m M小	
	18	方形	20×14m M大	
	19	方形	4×4m M小	鉄製の経筒出土
	20	方形	22×21.5m M大	県指定
	21	方形	14×8m M小	
	22	方形	7×6.5m M小	
	23	方形	4×4m M小	
	24	方形	6×5m M小	
	25	方形	3×2m M極小	
	26	方形	6.3×3.6m M小	
	27	方形	6.5×3.5m M小	
	28	方形	6.5×6.3m M中	
	29	方形	9.5×9m M小	
小森山支群	30	前方後円形	22.5×12.3×15×4×6m M小	
	31	方形	9.5×8m M小	
	32	円形	15×14m M小	盗掘
	33	方形	11×10.5m M小	
	34	方形	11×9.5m M小	
	35	方形	9.5×8m M小	
	36	円形	9×9m M小	
	37	円形	11×9m M小	
	38	円形	10×9m M小	
	39	円形	11×11m M小	
	40	円形	8×8m M小	盗掘
	41	方形	8×8m M小	
	42	方形	10.5×10.5m M小	盗掘
	43	円形	12×11.5m M小	
	44	円形	6.5×6m M小	
	45	円形	10.5×10m	
	46	円形	11.5×12.5m	盗掘
	47	方形	8×7.5m	
	48	前方後円形	17.5×11×11×4.5×4.5m	
	49	方形	9×10m	盗掘
	50	前方後円形	23.5×13×14×5.5×6.5m	
	51	円形	13×11.5m	
	52	円形	13.5×13m	
	53	前方後円形	19.5×10.5×13×6.5×7m	盗掘
	54	円形	12.5×12m	盗掘
	55	円形	9.5×8.5m	

	番号	墳形	大きさ	備考
小森山支群	56	方形	12.5×13.5m	
	57	円形	8×8m	盗掘
	58	前方後円形	21×14.5×15×5×7m	盗掘
	59	円形	9×8.5m	
	60	円形	7.5×7.5m	
	61	方形	4×5m	盗掘
	62	前方後円形	21×13×14.5×4×5m	盗掘
	63	円形	6×5.5m	
	64	円形	12×11.5m	盗掘
	65	前方後円形	21.5×11×12×4×7.5m	盗掘
	66	方形	6×7m	
	67	前方後円形	25.5×13.5×14.5×6×8m M大	
	68	方形	7×7.5m	
	69	前方後円形	23×13×14.5×7×8m	盗掘
	70	方形	9×9m	
	71	円形	9.5×9m	
	72	円形	9×9m	
	73	前方後円形	22×13.5×14×5.5×7m	盗掘
	74	円形	12×12m	
	75	前方後円形	23×13×14×6.5×10m	
	76	方形	9×9m	
	77	方形	8×7.5m	
	78	前方後円形	35×20×22×9×15m M大	盗掘
	79	方形	9×9.5m	
	80	円形	7×8.5m	
	81	方形	8×7.5m M小	
	82	方形	7.5×10m M小	
	83	方形	7×6.5m M小	
	84	方形	9×7.5	
	85	円形	16×16m M大	盗掘
	86	円形	11×11m M大	盗掘
	87	前方後円形	21×13×13×5×5.3m M中	
	88	円形	11×12m M大	
	89	円形	10×9m M小	
	90	円形	10×10m M小	盗掘
	91	方形	8.5×7m M小	
	92	円形	11×11m M中	
	93	円形	11.5×12m M中	盗掘
	94	円形	10×9m M中	
	95	円形	10×10.5m M中	
	96	円形	11×10m M中	
	97	円形	13×13m M大	
	98	前方後円形	28×17×16×6×6.5m M大	
	99	方形	16×16 M大	盗掘
	100	前方後円形	22×7.5×13×5×5m M大	
	101	円形	11×10.5m M小	
	102	方形	10×9m M中	
	103	方形	17×17m M小	
	104	円形	11×11m M小	盗掘
	201	円形	6×6m M小	

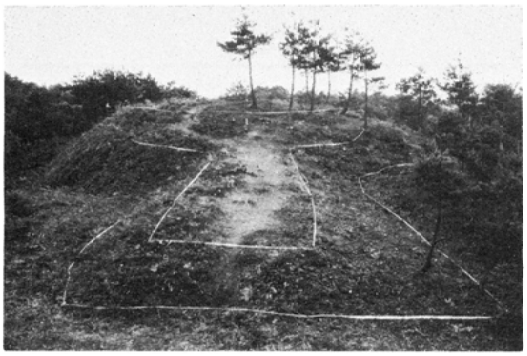
	番号	墳形	大きさ		備考
	202	円形	8×8m	M中	
薬師沢支群	107	方形	10×12m	M中	
	110	方形	10×10m	M中	
	111	方形	7×8m	M小	
	112	方形	8×8.5m	M小	
	113	方形	7×6.5m	M小	
	114	方形	11×11m	M中	
	115	方形	9×8m	M小	
	116	方形	18×19m	M大	盗掘
	117	方形	8×8m	M小	
	118	方形	7×6m	M小	
	119	円形	12×10m	M小	
	120	方形	10×11m	M中	
	121	方形	9×9m	M小	
	122	方形	10×9m	M中	
	123	円形	14×14m	M大	
	124	円形	10×10m	M大	
	125	円形	12×10m	M大	盗掘
	126	円形	12×13m	M大	
	127	方形	11×11m	M大	
	128	方形	18×16m	M大	
	129	方形	10×8(10)m	M中	
	130	方形	10×10m	M小	
	131	方形	10×10m	M小	
	132	方形	8×9m	M中	
	133	方形	9×9m	M中	
	134	方形	22×20m	M大	
	135	円形	10×12m	M中	
	136	方形	9×8m	M小	
	137	方形	8×8m	M小	
	138	方形	11×11.5m	M小	
	139	方形	12×15m	M中	盗掘
	140	方形	11.5×11m	M中	盗掘
	141	方形	10×10m	M中	盗掘
	142	方形	12×11.5m	M中	
	143	方形	12×13m	M中	
	144	方形	9×13m	M中	盗掘
	145	円形	22×27m	M大	
	146	方形	125×10m	M中	
	147	方形	5×9m	M中	
	148	方形	8×12m	M中	
	149	方形	12×13m	M中	
	150	方形	10×11m	M中	
	151	方形	13×10m	M中	盗掘
	152	方形	19×19m	M大	
	153	方形	10×9m	M中	
	154	方形	8×9m	M小	
	155	方形	5×5m	M小	
	156	方形	6×8m	M小	
	157	不定形(方)	5×5m	M小	

	番号	墳形	大きさ		備考
	158	方形	10×10m	M小	
	159	方形	7×8m	M小	
	160	方形	6×7m	M小	
	161	円形	9×9m	M中	
	162	円形	10×10m	M中	
	163	方形	7×7m	M小	
	164	円形	8×8m	M中	
	165	方形	8×9m	M小	
	166	方形	8×6m	M小	
	167	方形	4×4m	M小	
中間支群	168	方形	6×8m	M小	
	169	方形	12×13m	M小	
	170	方形	8×8m	M小	
	171	方形	24×13m	M小	
	172	円形	9×9m	M小	盗掘
	173	円形	8×8m	M小	
	174	方形	8×8m	M小	
	175	円形	15×15m	M小	盗掘
	176	方形	8×7m	M小	盗掘
	177	円形	12×11m	M小	
	178	方形	12×11m	M中	
	179	円形	12×12m	M中	盗掘
	180	円形	14×14m	M中	盗掘
	181	円形	13×11m	M中	
	182	円形	11×11m	M小	
	183	円形	14×14m	M中	
	184	円形	7×7m	M小	
	185	円形	13×12m	M小	
	186	方形	12×11m	M小	
	187	方形	7×7m	M小	
	105	方形	10.7×7m	M小	
	106	円形	24×23.5m	M大	
	107	方形	11×9m	M小	
	108	方形	8×9m	M小	
	188	方形	7×7m	M小	
	189	方形	22×21m	M大	
	190	円形	12.5×12.5m	M中	盗掘
	191	円形	10×10m	M小	
	192	円形	25×19m	M中	
	193	円形	15×15m	M中	
	194	円形	12×12m	M中	
永松寺支群	195	方形	3×4m	M小	
	196	方形	3.5×5m	M小	
	197	円形	3.5×3.5m	M小	
	198	円形	9×9m	M中	
	199	円形	9×9m	M中	
	200	方形	24×22m	M大	

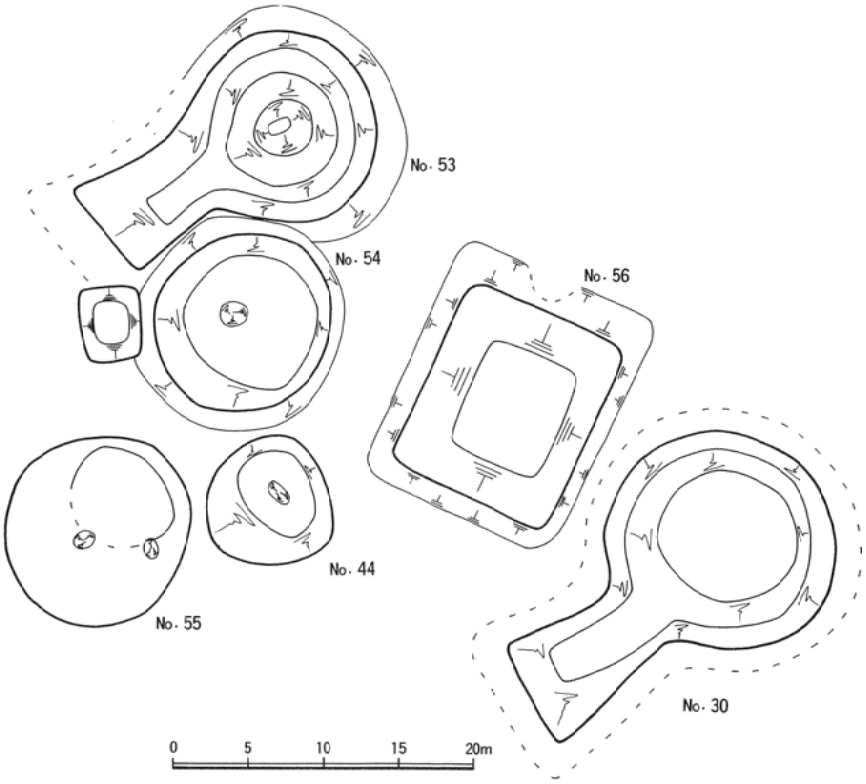
Mはマウンドを表わし、大2～4m　中1.5m　小1m以下を示す。



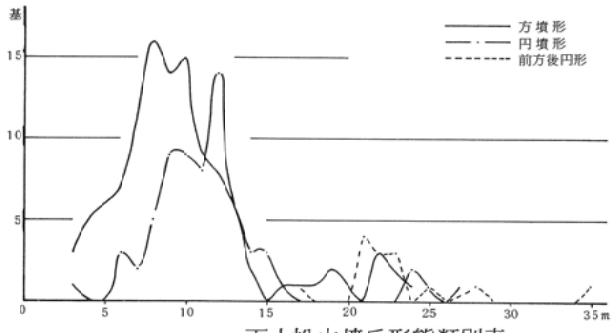
前方後円形の数値は図の順である。



小森山　98号墳



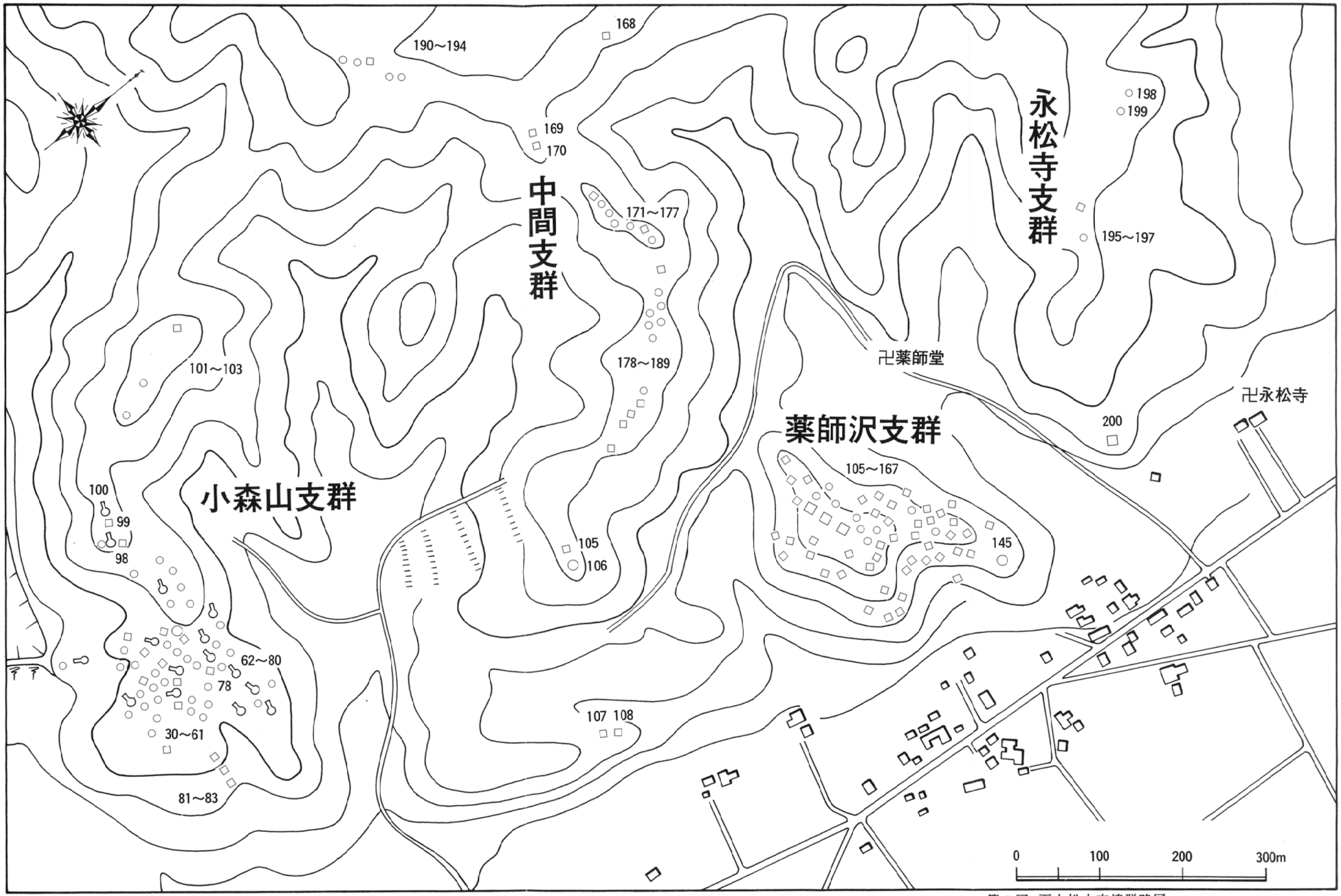
第5図　小森山支群実測図



下小松山墳丘形態類別表

表一2図　支群別形態・数

支群＼形	方形形	円墳形	前方後円墳形	計
尼カ沢	24	—	—	24
小森山	24	38	15	77
薬師沢	49	10	—	59
中間	14	17	—	31
永松寺	3	3	—	6
計	114	68	15	197



第 6 図　下小松山古墳群略図

Ⅳ. ま　と　め

本調査は、昭和54年度より4カ年発掘調査が行われた道伝遺跡が郡役所として位置づけられるようになり、その周辺の調査をする計画で、また、町の開発に先行して遺跡の分布調査を行い、遺跡の保存を図るために行ったものである。

この眺山丘陵周辺に存在する遺跡の中で、昭和53年発行の「山形県遺跡地図」には7遺跡が登録されているが、今年度の調査によって新たに7遺跡を確認することができた。しかし、現況が水田や森林等で試掘調査の困難な所が多く、調査範囲が限定された所もある。

眺山丘陵周辺には、縄文時代の平谷地遺跡、古墳時代（4世紀末から5世紀初頭）の天神森古墳、古墳時代末より奈良時代初頭の龍蔵北遺跡、奈良時代末から平安時代の道伝遺跡、縄文時代から鎌倉時代（複合遺跡）である千松寺遺跡等、縄文時代より中世まで多様の遺跡が分布していることを確認できた。その中で、墳墓群として記録されている薬師沢（県1328）、小森山、舞台山（県1329）、尼カ沢（県1331）には前方後円の形をした墳丘が今年度の調査で15基発見されたことにより、これらの墳丘群を中心として調査を進め、200基を越す墳丘を確認することができた。しかし、墳丘は発掘調査を実施しておらず、年代等は差し控えたいが、前方後円の形のものは古墳と考えている。また、それに関連する方墳・円墳等は倍塚と考えているが、全てが古墳時代のものとはいいきれないことも事実であり、今後これらの位置図、正確な年代等を念頭において調査する計画である。

以上のことなどから下小松古墳群は、その遺跡群から多年にわたる時期の墳丘であると推察できる。また、分布確認調査が、当初の調査計画の範囲全てが調査できなかったことから、次年度もひきつづき調査を実施し、詳細な調査のもと報告する。

特に、下小松山の墳丘群については、周辺部の調査までできなかった。そこで、調査範囲を広げ、ひきつづき墳丘の確認調査を実施する計画である。

緑と愛と丘のある町

分 布 調 査 報 告 書

昭和 59 年 3 月 20 日 印刷

昭和 59 年 3 月 24 日 発行

発行　川西町教育委員会社会教育課

印刷　㈱よ ね ざ わ 印 刷